



## シラバス

シラバス 2010 年度の講義概要のデータベースを検索します。

■学部・研究科	理工学研究科	■時間割コード	93576
■科目名 サブテーマ	M都市システム工学ゼミナール3	■授業形態/単位	春/2
■担任者名	<u>鶴田 浩章</u>	■クラス	
■講義概要	<p>■曜限 金6</p> <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;            広い視野に立って物事を考え、研究能力又は社会で必要となる能力を身につけることを目的として、修士論文作成に取り組み、それに関連して必要となる技術力を養う。特に、課題解決能力とデータを取りまとめる力を養う。            &lt;授業の概要&gt;            本ゼミナールでは、建設材料やコンクリート構造物の施工、維持管理などに関する各自のテーマの実験や文献調査から得られた情報やデータの整理、取りまとめの考え方を習得し、指導教員との議論を通じたコミュニケーション能力の向上に努め、検討の成果を積み重ねながら実際に修士論文作成を進めていく。</p>		
■講義計画	<p>以下のポイントに留意しながら、各自の研究テーマに対して修士論文作成の取り組みを進めていく。定期的に、進捗状況の報告・議論を行いながら、コンクリート工学に関する知識を深めていく。</p> <p>第1週～第4週: 研究の位置づけの考え方            ゼミナール1および2の成果を踏まえて、さらに文献調査を行うことで、研究のキーワード、現状、問題点等を把握し、研究の位置づけを考える。文献調査結果の整理と報告。            前年度の継続事項については、継続して進める。</p> <p>第5週～第6週: 研究目的の設定            ゼミナール1および2の成果および文献調査結果を踏まえて、研究目的を設定する。            前年度の継続事項については、継続して進める。</p> <p>第7週～第10週: 研究計画・実験計画の策定            研究目的を踏まえて、研究計画・実験計画を作成する。研究計画について報告、議論を行い、研究計画を完成させる。それを受けて、使用材料の手配や使用機器等の準備を進める。前年度の継続事項については、継続して進める。</p> <p>第11週～第13週: 実際の実験を通して、現象の理解を進める            4年次生の特別研究の実験に対する指導や各自の研究計画に伴う実験を通して、建設材料に関する現象の理解を進める。結果についての考察を進める。</p> <p>第14週: まとめとしての報告会            春学期に取組んだ実験等の結果と今後の課題、予定等についての報告を行う。</p>		
■成績評価の方法	<p>定期試験を行わず、出席・平常レポート・平常試験など(平常成績)で総合評価する            レポートや日頃の報告の内容(40%)、ゼミでの議論への参加及び学部生への指導(10%)、まとめの報告会の発表、質疑応答(50%)などの平常点から総合的に評価する。</p>		
■教科書	必要に応じてプリントの配布を行う。		
■参考書	土木学会 2007年版『コンクリート標準示方書』 設計編、施工編、維持管理編、規準編		
■備考	オフィスパワー: 随時実施。予約が望ましい。E-Mail: tsurutah@kansai-u.ac.jp		

Copyright (C) 2004-2010 関西大学および情報提供者 All rights reserved. 無断転載を禁じます